

東京のパワースポット「新宿」から発信する、オリジナルミュージカル

作品の舞台は、1990年代の新宿。都心の中でも特に多様性が豊かで、多国籍の人種と文化が入り混じり、情報や経済交流が盛んなエネルギッシュな街「新宿」を背景に、希望にあふれた「再生の物語」を日本全国へ、世界へ向けてメッセージを発信します。 — 今回の公演は、新宿区とコラボレートした初の試みです —



人は誰でも、誰かにとっての神になりうる
 未曾有の天災となった東日本大震災。その圧倒的な現実の前で、私たち音楽座ミュージカルはいったい何が出来るのかと、あがいた空白の年月がありました。そして、たどり着いた答えが、この「ラブ・レター」です。
 家族の生活のために、祖国を後にして日本に身を売りに来た白蘭。一度も会うことのなかった白蘭が、見知らぬ自分を思い続けることでしか生きられなかったことを知った吾郎は、それまで投げやり生き、汚れきってしまった心が激しく震えていることに気づきます。
 そんな吾郎の変化は、彼の周りでチャラチャラと生きてきた若者・サトシの心にも…。

— 人は誰でも、誰かにとっての神になりうる —
 「ラブ・レター」は、誰の心にもある小さな善意を呼び覚ます物語です。



【原作者】浅田次郎

1951年東京都生まれ。95年「地下鉄(メトロ)に乗って」で吉川英治文学新人賞、97年「鉄道員(ぼっほや)」で直木賞、2000年「壬生義士伝」で柴田錬三郎賞、06年「お腹召しませ」で中央公論文芸賞と司馬遼太郎賞、08年「中原の虹」で吉川英治文学賞、10年「終わらざる夏」で毎日出版文化賞を、それぞれ受賞。著書に「天切り松 間がたり」シリーズや「プリズンホテル」「蒼穹の昴」「シェラザード」「悪神」「ま、いっか。」「ハッピー・リタイアメント」「降霊会の夜」「一路」など多数。

Story

ある年、東日本大震災の津波によって流された墓地を訪れたサトシは、かつての新宿歌舞伎町の食堂で働いていた女性・ナオミと再会する。長い歳月を経た偶然の再会を喜ぶサトシ。やがて二人の会話は、サトシが大事に持っていた一通の手紙のことから過去の出来事へと遡っていく。
 新宿歌舞伎町で汚れた仕事を請け負いながら暮らしている男・高野吾郎は、知り合いのヤクザ・佐竹に偽装結婚の話を持ちかけられた。さして断る理由もなかった吾郎は、小金欲しさに戸籍を売ることにする。偽装結婚の相手は、中国人女性の白蘭(パイラン)。彼女は日本の国籍を得て働いた金で、中国に暮らす家族を養おうとしていたのだ。
 白蘭に会うこともなく、報酬としてもらった金もあつという間に使い切り、一年ほど経ったある日、吾郎のもとへ一通の「死亡通知書」が届く。死んだのは、妻・高野白蘭。偽装結婚したことさえ忘れかけていた吾郎は、戸籍を売った佐竹の事務所に相談に駆け込むが、逆に遺体を引き取りに行くよう命じられ、白蘭の残した手紙を渡される。
 会ったこともない、顔も知らない女の遺体を、どうして自分が引き取りに行かなければならないのか。腹をたてながらも、吾郎は佐竹の事務所にいたチンピラのサトシと一緒に、白蘭の遺体が収容されている千葉の千倉へと赴くことになった。白蘭の手紙を読み、日本での彼女の軌跡をたどる中で、吾郎はこの見知らぬ妻と、あらためて出会っていくことになる。そしてそんな吾郎の心の変化は、ともに行動していたサトシをも変えていくのだった。

Cast

秋本 みな子	伊沢 絵里子	井田 安寿	上坂 琴乃	大川 麻里江	兼崎 ひろみ	河村 真希	北村 祥子	清田 和美	高野 菜々	新木 りえ	富永 波奈	富永 友紀	野口 綾乃	美羽 あさひ(客演)
浜崎 真美	堀川 亜矢	宮崎 祥子	安中 淳也	五十嵐 進	大須賀 勇登	小林 啓也	佐藤 伸行	新木 啓介	萩原 弘雄	広田 勇二	藤田 将範	渡辺 修也	益山 武明(プロダクション所属)	
安島 萌	伊藤 美咲	大西 絢子	北村 麻貴	小林 桃子	齋藤 睦	東海林久美	福田 茜	松尾 恵理	宮地 奈々子	山崎 穂波	飯田 良太	石黒 匠	上田 亮	中村 詞文

●聴講生
 伊藤 ゆりえ
 奥 綾香
 塩田 早紀子
 鈴木 さあや
 中本 愛
 野田 ゆかり
 肥田 ももな
 三島 崇司
 ●稽古場参加メンバー
 ジェーン・イズミ・チョン
 竹田 麗那
 平田 薫
 大音 智海